

# 1

改札口<sup>かいさつぐち</sup>を出て腕時計<sup>うでどけい</sup>を見ると、二本<sup>にほん</sup>の針<sup>はり</sup>は午後8時半を少し過ぎたところを指していた。おかしいなと思い、周囲<sup>しゅうい</sup>を見回した。案<sup>あん</sup>の定<sup>じよう</sup>、時刻表<sup>じこくひよう</sup>の上に取り付けられた時計は、八時四十五分を示している。浪矢貴之<sup>たかゆき</sup>は口元<sup>くちが</sup>を歪め、舌打ちした。オンボロ時計め、また狂<sup>くる</sup>ってやがる。

大学の合格祝<sup>ごうかく</sup>いで父親<sup>ふい</sup>かもらった時計は、最近になって不意に止まることが多くなった。20年も使っていれば当然か。そろそろクォーツに買い替えようかなと考えた。水晶発振方式<sup>すいしょう ほうしん</sup>の画期的<sup>かっき</sup>な時計は、かつては軽自動車並<sup>な</sup>みの値段がしたが、最近では急速に低価格化<sup>かかく</sup>している。

駅を出て、商店街を歩いた。この時間になっても、まだ開いている店があることに驚いた。外から覗<sup>のぞ</sup>いた限りでは、どの店もなかなか繁盛<sup>はんじよう</sup>しているらしい。ニュータウンができて新しい住人<sup>じゅうにん</sup>が増え、駅前商店街<sup>じゅうよう</sup>の需要が高まった、と聞いたことがある。